

蜂

よく見る蜂のプロフィール



新宿区保健所

はじめに

日本では4,000種以上の蜂が確認されていますが、その多くは巣を持たずに単独生活をしていたり、他の昆虫等に寄生生活をしており、余り私達の目に触れることはありません。

私達が普段よく目にする蜂は、ミツバチやアシナガバチ等のごく一部の種類で、これらの蜂は、いわゆる「蜂の巣」を作り、女王蜂を中心とした社会生活をしています。これらの蜂の働き蜂は、巣作りや子育て、餌の収集等をしていますが、その際に植物の花粉を受粉させたり、毛虫を獲ったり花蜜を集めたりしているので、私達にとっては有益な昆虫と言えます。スズメバチ等の一部の蜂以外は、性質もおとなしく、刺激を与えなければ刺されることはまずありません。

できることならば、これらの蜂達と共存したいのですが、蜂の巣が建物の入り口や、通り道のすぐ近く等、私達の生活に密接な場所にできたときには、残念ながら巣の除去をせざるを得ない場合もあります。

この冊子では、区内でよく見られる4種類の蜂について解説しました。これらの蜂達との付き合い方の参考にされることを希望します。

新宿区保健所衛生課生活衛生係



蜂の一生

● アシナガバチ、スズメバチ

春先に女王蜂が単独で巣作り、産卵をします。働き蜂が誕生すると、女王蜂は産卵に専念し、巣作り・子育て・餌集め等は働き蜂の仕事になります。

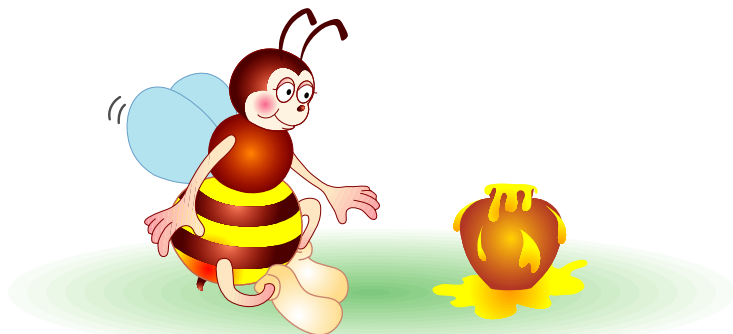
秋に新女王蜂や雄蜂が誕生し、巣外で他の巣の蜂と交尾し、交尾した新女王蜂は、土中や朽木の中で越冬します。冬には旧女王蜂や働き蜂、雄蜂は死に絶え、巣は空っぽになります。

● ミツバチ

3～4月頃、働き蜂から特別な餌（ローヤルゼリー）を与えられた幼虫が新女王蜂になります。

新女王蜂がかえる（羽化する）直前の晴天の日に、旧女王蜂は、巣の約半数の働き蜂とともに、新しい営巣場所を求めて飛び去ります（分封）。

新女王蜂は羽化後、4～10日で空中で交尾します。巣に戻った女王蜂は4～5年生き、卵を産み続けます。働き蜂の寿命は、冬季で6ヶ月、春から夏は1～2ヶ月位です。





区内でよく見られる蜂 4種類の蜂について紹介します。

● ミツバチ

ミツバチには、セイヨウミツバチとニホンミツバチがありますが、つまんだりしなければ刺されることはありません。また、春の分封(女王蜂の巣分け)時に、街路樹等に大群をなしボール状の塊をつくることがあります。見た目には恐怖心をおぼえますが、こちらから危害を加えない限り攻撃してくることはまずありません。巣を作る場所が見つければ、蜂たちは移動して行きます。早くて1日・遅くて1週間のうちには移動するはずですので、様子をみてください。



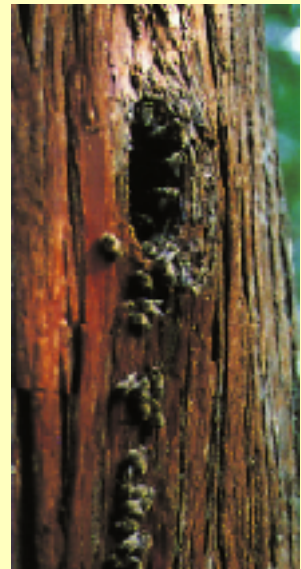
ニホンミツバチ

● 巣

巣を作る場所は、樹木の洞、天井裏、壁の中、床下などです。



ミツバチの分封



ニホンミツバチと
樹木の巣

● アシナガバチ

アシナガバチには、セグロアシナガバチ、フタモンアシナガバチ等がありますが、軒下、生垣、樹木等様々な場所に巣をつくります。スズメバチほど攻撃性は強くありませんが、うっかり触ったり、巣にいたずらをするとう刺されます。特に盛夏から初秋にかけて蜂の数が増え、洗たく物と一緒に取り込まれたりします。



セグロアシナガバチ

● 巣

巣の形は、平たい形、お椀をひっくり返したような形で、下から見るとシャワーヘッドのように六角形の巣穴がたくさん作られているのがよく見えます。

巣は一年限りの使用ですので、翌年使われることはありません。



セグロアシナガバチの巣

● スズメバチ

スズメバチ類は、巣を守る本能が強く、興奮すると集団で人を攻撃することがあります。

世界最大種であるオオスズメバチは山間や郊外に生息し、攻撃性が強く、ハイキング等で巣の近くを通った際に刺されることが多いので注意が必要です。

キイロスズメバチもかなり攻撃性が強く、家屋等に営巣した場合は、巣の付近で作業をしたり、通行することで刺激を受け、攻撃してくることがあります。

コガタスズメバチは、攻撃性はあまり強くありませんが、樹木の^{せんてい}剪定等で刺激を与えると刺されることがあります。

区内で見られるスズメバチはほとんどがコガタスズメバチですが、まれにキイロスズメバチも見られます。



キイロスズメバチ



コガタスズメバチ

● 巣

巣を作る場所は、樹木の枝、軒下、天井裏、土中等種類によって様々です。

オオスズメバチは主に土中に巣を作ります。区内で営巣することはまずないと思われませんが、山歩き等の際には足元にも注意して下さい。

キイロスズメバチは、樹枝、軒下や家屋の壁の間、天井裏等様々なところに巣を作りますが、天井裏等の閉鎖空間に営巣した場合、働き蜂が増えて巣が手狭になると、軒先等の開放空間に集団で引越して新たな巣を作ることがあります。コガタスズメバチは低木の枝に巣を作ることが多く、営巣の初期段階ではトックリの形、後に縞模様のボール状になります。

巣は、1年限りの使用ですので、翌年使われることはありません。



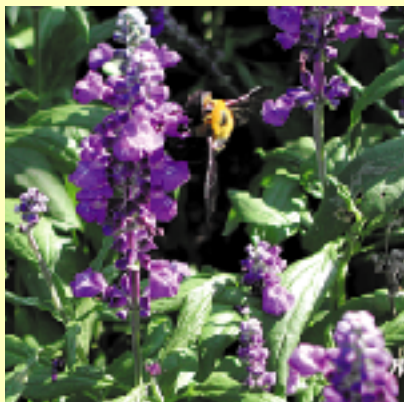
コガタスズメバチの巣
(営巣初期)



コガタスズメバチの巣
(営巣後期)

● マルハナバチとクマバチ

ミツバチ科の蜂で花粉や花蜜を食物としています。からだが大きく、毛で覆われ、ぶんぶん羽音を立てることから怖がられていますが、マルハナバチやクマバチはスズメバチと違ってとてもおとなしくほとんど人を刺すことはありません。(マルハナバチには農家のハウス栽培の受粉用に養殖されている品種もあります。)



クマバチ

● 巣

巣を作る場所は、土中や樹木の洞(マルハナバチ)、枯れ枝の中(クマバチ)などです。人目に付きにくく、発見しにくいといわれています。

巣は、1年限りの使用ですので、翌年使われることはありません。

アシナガバチの巣の駆除の方法

スズメバチに比べて攻撃性が弱いこと、また、益虫としての側面を大切にする意味でも、手を伸ばしても触れることのない高い所の巣については、むしろそのままにしておくことを勧めています。誤って触れてしまう可能性のある低いところの巣については、駆除もやむを得ないと思います。

〈服装〉

服装は、黒っぽいものを敵とみなして攻撃してくるので白っぽい服や帽子を着用のうえ、化粧や香水を使用しない状態で駆除を行います。

〈駆除作業の時間帯〉

蜂が活動を停止して巣に集まっている夜間に行います。

〈駆除方法〉

市販のスプレー式殺虫剤（ハエ、カ、ゴキブリ用等）を、**巣から1～2m離れた風上側から**、巣に向かって噴霧すれば簡単に駆除できます。

ただし、懐中電灯を使用すると、蜂が灯りに向かって飛んでくることがありますので注意が必要です。

薬剤を噴霧すると、巣に止まっていた蜂が飛び散りますが、これは攻撃ではありませんので、飛んでくる蜂の体に触れないように注意して、噴霧を続けてください。殺虫剤が数秒でも体に付着すると、蜂は攻撃性がほとんどなくなり、飛び立ったまま巣へ戻ることなく死亡します。薬剤のかかった蜂は人を刺すことはありません。驚いて作業を中断せずに、巣に向かって薬剤を噴霧し続けます。

噴射を終えたら暫く様子を見てから、巣を取除いて、袋などに入れ普通のごみとして出してください。

蜂に刺されないようにするには・・・

- (1) 巣に近づかない、巣に石を投げたり、つついたりして蜂を刺激しない。
- (2) 巣の前を急いで横切ったり、振動を与える等の急激な動作を避ける。
- (3) 巣の近くで芳香のある香水、ヘアスプレー、その他化粧品を使わない。また虫除けの超音波装置も蜂を刺激するので身につけない。
- (4) 黒い衣服は、刺されやすく、白っぽい服の方が安全度は高い。
- (5) 蜂がいる場所で、熟した果実を食べたりジュース等甘味料を飲まないこと。(蜂は、木の樹液や、甘いものに集まってきます。)
- (6) 洗濯物をとりにれる時は、蜂が潜んでいないかよく点検する。
- (7) 駐車中の自動車の窓は、必ず閉めておく。
- (8) 野外活動中にスズメバチ類の巣と突発的に遭遇し、見張りの蜂に威嚇や攻撃を受けた場合、大声で騒いだり、腕で蜂類を追い払う事は厳禁です(蜂は左右や急激な動きに敏感なため)。頭を隠し、姿勢を低くして巣からゆっくり離れることが重要です。



蜂が部屋に入ってきた時の対処は・・・

室内に入った蜂は手で握ったり振り払ったりしない限り人を刺すことはありません。

巣以外の場所では危険性は少ないので、明るい方角の窓を空けて、出ていくのを待ちましょう。

蜂に刺されたら



- ① 刺された場所から、安全な場所に避難する。
- ② 傷口を水で洗い流す。(蜂の毒は水に溶けやすい)
- ③ 患部に抗ヒスタミン軟膏を塗る。(アンモニアは効果がありません)
- ④ 蜂毒に過敏な体質の人は、死に至る場合もあります。ひどくはれたり、じんましん・めまい・吐き気・息苦しさ等の症状が見られたら、直ちに医師の診察を受けてください。





蜂

—— よく見る蜂のプロフィール ——

平成17年8月発行

編集・発行 新宿区保健所衛生課生活衛生係
〒160-0022
新宿区新宿五丁目18番21号
TEL 03-5273-3845